

非認知能力とは？

これまでの教育は、学力偏差値を上げ、「正しい答え」を導き出す技術を教え、試験で高い得点を取り、偏差値の高い学校に入学することが子どもたちの教育の最終目標であるかのような傾向にあります。しかし、それ以前に「子ども達が豊かに成長し、何があっても生き抜く力をつける」ことは、これからの時代を生きていくうえで最も重要なことです。

認知能力＝知的能力（IQ）

基礎的知識、記憶力、判断力などの一般的な知能検査（テスト）で測定できる能力（算数、国語など）

非認知能力＝こころの知能指数（EQ）

意欲、興味、自信、協調など感情や心の動きに関する能力であり、テスト等では測ることはできないが、生きるうえで必要な力

【中心となる3つの力】

忍耐力（最後までやり抜こうとする力）

社会性（人と上手にコミュニケーションする力）

感情コントロール（自分の気持ちをコントロールする力）

認知能力と非認知能力は、絡み合うように伸びると言われています。意欲や関心を持って粘り強く取り組むと、自然に深く考えたり工夫したりする認知能力が高まります。結果、達成感や充足感が得られ、自己肯定感が高まり、「次も頑張ろう」と非認知能力が強化されます。

SELとは？

SELは、英語の「Social Emotional Learning」の頭文字です。

日本語では、「社会性と情動性の学習」と呼ばれ、教育現場や家庭で行われるEQ（こころの知能指数）教育であり、学ぶことでスキルとして身につけることができます。

SELは、子どもが次のような行動において必要な知識・態度・スキルを習得し、効果的に活用するためのプロセスです。

- 自分の感情を意識し、上手に調整する
- 前向きな目標を自ら設定し挑戦する
- 人の気持ちを理解し、共感を示す（適切な対応をとる）
- 良好な人間関係を築き、維持し、修復する
- 責任ある決断をする

これらは、全ての学びのベースとなるものであり、自分自身や「人間」について学ぶことに繋がります。

「何かをやり抜く粘り強さ」「自分の感情をコントロールできる力」「他人の気持ちを理解する力」「目標を持って能動的に学ぶ力」などの、これからの時代に必要とされる「真に生きる力を高め豊かな心を育む教育」プログラムですが、これは、新しい学習指導要領に定められた「生きる力を育む教育」とも共通したものです。

SDGs との関係について

「あつみ杉」の林業があることで山が手入れされ、間伐後の焼き畑で作られるミネラル豊富な土壌では「温海かぶ」の栽培が行われています。土から浸透したミネラルはいずれ川に流れ、鮭の遡上する栄養豊富な川になり、やがて海に流れ出て豊かな漁場を作っています。

また、日本三大古代布のひとつである「しな織」をはじめとする数々の伝統文化が今も残っているなど、温海は自然と共生する知恵が今も息づいている地域です。

SDGs で目指す、持続可能な一次産業の循環と自然との共生が、ここ温海にあります。

